

# CASBEE®-戸建(新築)SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアルCASBEE-戸建(新築)2021年SDGs対応版 ■使用評価ソフトCASBEE-DH NC 2021SDGs(v1.0)

1-1 建物概要			1-2 外 観		
建物名称	-		仕様等の確定状況	建物の仕様	確定
竣工年月	2025年9月	予定	持ち込み家電等	確定	
建設地	-		外構の仕様	確定	
用途地域	都市計画区域内 市街化区域	確定	<備考>		
省エネルギー地域区分	7 地域				
構造・構法	木造軸組工法	確定	サステナブル先導事業 環境効率 最高ランクS		
階数	2		LCCM4つ星		
敷地面積	175 m <sup>2</sup>	確定	評価の実施日	2025年5月12日	
建築面積	68 m <sup>2</sup>	確定	作成者	村田 文	
延床面積	100 m <sup>2</sup>	確定	確認日	2025年5月15日	
世帯人数	4	確定	確認者	田中章三	

2-1 戸建の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果
<p><b>BEE = 3.4</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>★☆☆☆☆ ~0% ☆☆☆☆☆ ~50% ☆☆☆☆☆ ~75% ☆☆☆☆☆ ~100% ☆☆☆☆☆ 100%超</p> <p>戸建標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 72%</p> <p>③上記+②以外のオンサイト手法 28%</p> <p>④上記+オフサイト手法 28%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>3(保健) 2.4</p> <p>4(教育) 2.9</p> <p>5(ジェンダー) 2.3</p> <p>6(水・衛生) 2.2</p> <p>7(エネルギー) 3.0</p> <p>8(経済・雇用) 2.9</p> <p>9(イノベーション) 2.9</p> <p>11(都市) 2.4</p> <p>12(生産・消費) 2.9</p> <p>13(気候変動) 2.5</p> <p>15(陸上資源) 2.0</p> <p>17(実施手段) 2.4</p> <p>* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています</p>

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする Q1のスコア= 3.9</p> <p>Q2 長く使い続ける Q2のスコア= 4.0</p> <p>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする Q3のスコア= 3.1</p>		
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p>LR1 エネルギーと水を大切に使う LR1のスコア= 4.5</p> <p>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす LR2のスコア= 4.7</p> <p>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する LR3のスコア= 3.1</p>		

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>長期にわたり健康で安全で省エネルギーな居住に供し、LCCO<sub>2</sub>がマイナスとなることを目指す住宅で、ZEHの上位概念となライフサイクルカーボンマイナス住宅(Life Cycle Carbon Minus)です。</p>	<p><b>その他</b></p>	
<p><b>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</b></p> <p>断熱性能をランクアップ外皮平均熱貫流率以上とし、快適な温熱環境を維持することで、健康に暮らせる住宅です。</p>	<p><b>Q2 長く使い続ける</b></p> <p>認定長期優良住宅です。維持管理体制においては、維持保全計画点検と住宅履歴登録・保存・管理も行っており、不具合が生じた時の追跡調査も可能です。</p>	<p><b>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</b></p> <p>構造躯体・内外装材に、地域材の資源を活用し、住文化の継承につとめています。また、周りのまちなみや景観に対して調和がとれており、外構計画についても、多種の植栽、照明、塀について通りを演出する工夫が行われています。</p>
<p><b>LR1 エネルギーと水を大切に使う</b></p> <p>暖房設備・換気設備・給湯設備・照明設備を各物件ごとに適切に組み合わせ創エネ設備を含め省エネ率30%を以上とし太陽光に依存しないLCCM住宅です。LCCO<sub>2</sub>6項目については、特段の配慮をしています。また、HEMSを設置し消費エネルギーの確認のしやすさに配慮しています。</p>	<p><b>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</b></p> <p>省資源・廃棄物抑制として、構造材には、持続可能な森林から産出された木材を使用し、外装材・内装材には、再生可能材料を積極的に使用しています。廃棄物削減への取組みとして、構造材のプレカット加工、広域再生利用指定制度を取得したメーカーの材料を積極的に使用しています。</p>	<p><b>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</b></p> <p>従前の土地を改変することなく、既存の自然環境の保全を行っています。また、騒音、振動、排気、排熱の低減、周辺温熱環境へも積極的な配慮が行われています。</p>

- CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- Q: Quality (環境品質), L: Load (環境負荷), LR: Load Reduction (環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (環境効率)
- CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE-戸建(新築)の場合、BEE<sub>全</sub>、Q<sub>全</sub>、LR<sub>全</sub>などとすべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した
- 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す
- 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q<sub>全</sub>2、LR<sub>全</sub>1中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)
- ライフサイクルCO<sub>2</sub>の算定条件等については、マニュアルおよび「CO<sub>2</sub>計算」シートを参照されたい